

学年	高校2年	教科	英語科	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
教科書名	・ Revised POLESTAR English Communication II(数研出版)			副教材名	・英検2級 出る順パス単 5訂版(旺文社) ・五訂版 基礎と発展 英語構文 ワーク100(数研出版) ・スタディサプリ English		
コース・クラス	スポーツ、芸能						

I. 目標

- 1 高校3学年4月に実施予定の基礎学力到達度テストの長文問題で70%を目指す。
- 2 実用英語検定、GTEC、TOEFLなどで3年1学期までにCEFRA2-B2レベルの英語力の習得を目指す。

II. 授業のねらい

1 聞くこと・読むこと

- ① 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文などから、必要な情報を聞き取り、話や文章の展開、概要や要点、や話し手・書き手の意図を把握することができるようにする。
- ② 知らない単語や表現が含まれていても、前後の文脈から内容を把握できるようになる。
- ③ 重要構文は完成した和訳ができるようにしつつ、全体の文章は左から右へと読み解き、限られた時間の中で多くの文章を読むことができる速読力の向上を促す。

2 話すこと

- ① 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文など事前の準備することで、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えることができるようにする。
- ② 教科書の文章表現を自分の言葉にして英語で説明できるようにする。

3 書くこと

教科書に出た重要構文の文法表現を用いた表現を活用し、独自の文章を書けるようにする。

III. 授業の進め方

1 導入

New words&phrases は事前に調べ学習をさせ、Lesson の導入として到達度テストに形式が類似した warm up quiz の単語問題に取り組む。またそれらの単語から本文のジャンルを想定する練習を促す。

2 本文

- ① 問題演習を軸に本文を読み解き、重要構文は解説を行う。各文法が文の中でどういった役割を果たしているのか、文の構造を学習させる。
- ② 教科書本文を用いた音読活動を行う。文の区切りなどを正しく理解し読むことができるよう促す。
- ③ Optional Lesson, Reading, Real-World English などの項目をペアやグループで取り組み、意見を交換できるようにする。

④ 問題指示文等を英語で理解できるようにする。

3 リスニング

『スタディーサプリ English』を用いて、レベル4のレッスンを利用し演習・復習に取り組ませる。
また、音読活動を通し、英語の音声に日頃から慣れていくようにする。

4 その他

- ① 『スタディーサプリ English』のデイリーレッスンやスピーキングプラスを用いた課題を指示し、教科書以外の文章に触れることで、初見の長文問題への対応力を促進させる。
- ② 単語学習は『英検2級 出る順パス単』を利用し、週に1度のテストを目標に学習を進めていく。英検2級レベルの語彙力を身に付けることで、基礎学力到達度テストにも対応できるようにする。
- ③ 生徒の理解度に合った長文課題を週に1回宿題として課すことで、演習の機会を設ける。
- ④ 授業の中で演習の時間を設け、『基礎と発展 英語構文ワーク 100』を使って、文章読解力を身に付ける。重要構文を含んだ短文問題に数多く触れることで、複雑な構造の英文や長文読解に対応できる応用力を養う。

IV. 学習上の留意点

- 1 生徒のレベルに応じて教科書以外の教材も扱う。
- 2 使用した題材に近い時事ニュースなど生徒に情報を提供する。
- 3 内容に応じて英語のネイティブ教員による授業を展開する。

V. 定期試験

- 1 1学期中間試験、1学期期末試験、2学期中間試験、2学期期末試験、3学期学年末試験の5回実施。
- 2 各定期試験の範囲は教科書2Lesson分程度とする。また、副教材からも出題する。
- 3 基礎学力到達度テストと同じ形式の問題を数題出題する。
- 4 授業で扱った箇所は、全体の6割程度出題する。
- 5 初見問題(実力問題)を4割程度出題する。

VI. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物状況と内容、授業の取り組み方などを総合的に評価する。

VII. 授業計画

学 期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	①Lesson 1 『Japan Through Foreign	・ 中間試験及び期末 試験	<各章の目標> ①
	5	Eyes』 ・ 完了形不定詞 ・ to-不定詞の受動態 ・ 助動詞+have+過去分詞	・ 小テスト	・ 日本人の自国に対する意識と外国人からの 視点が理解できる。 ・ 完了不定詞/to-不定詞の受動態/助動詞+ have+過去分詞 の用法を理解している。
	6	②Lesson 2 『Universal Design—Making	・ 模試	・ Part 1,2,3 で「対比の表現」が用いられて いることを理解する。
	7	Everyone Safer and Happier』 ・ 前置詞と関係代名詞 ・ 形式目的語 it	・ 英単語テスト ・ 提出物	② ・ バリアフリーとユニバーサル・デザインの 違いについて理解できる。 ・ ロナルド・L・メイスの考えについて理解 できる。 ・ 前置詞と関係代名詞/形式目的語 it の用法 を知っている。
		③Lesson 3 『Table for Two—Helping		③
		Others as You Eat』 ・ 関係副詞の継続用法 ・ 関係代名詞の継続用法 ・ 進行形の受動態 (be+being+過去分詞) 小テスト実施および解説(返 却時)		・ Table for Two のシステムとその活動内容と その効果について理解できる。 ・ 関係副詞の継続用法/関係代名詞の継続用 法/進行形の受動態 を知っている。
		④Lesson 4 『 The Story of the		④
		Ertugrul』 ・ 完了形の分詞構文 ・ what+(little/few)+名詞 ・ 未来完了形		・ エルトゥールル号遭難時の大島の人々の行 動の内容が理解できる。 ・ イラン・イラク戦争の勃発時にテヘランの 日本人をなぜトルコが助けたかが理解でき る。 ・ 完了形の分詞構文/what+(little/few)+名 詞~/未来完了形 の用法を知っている。

<p>一学期</p>	<p>9 10 11 12</p>	<p>⑤Lesson5 『Let's Stop Saying "That's Impossible"』 ・ be+to-不定詞 ・ 句の節を受ける which</p> <p>⑥Lesson6 『The Miracle of Curitiba』 ・ 複合関係詞 ・ S+V+O+C ・ School Trip Presentation</p> <p>⑦Lesson7 『Rakugo in English』 ・ so/neither+ (助) 動詞+主語 ・ as if</p> <p>⑧Lesson8 『Nelson Mandela and the Springboks』 ・ 関係代名詞の継続用法 (~+of which) ・ 仮定法現在 ・ 結果を表す to-不定詞</p>	<p>・ 中間試験及び期末試験</p> <p>・ 小テスト</p> <p>・ 模試</p> <p>・ 英単語テスト</p> <p>・ プレゼンテーション</p> <p>・ 提出物</p>	<p>⑤ ・ 植松努さんが北海道へ戻ってロケット開発を始めるまでのいきさつが理解できる。 ・ 植松努さんが好きではない言葉とその理由が理解できる。 ・ be+to-不定詞/句や節を受ける which の用法を知っている。</p> <p>⑥ ・ クリティバが抱えていた都市問題について理解できる。 ・ レルネル市長の行った改革とその効果が理解できる。 ・ 複合関係詞/S+V(使役動詞)+O+C(過去分詞) の用法を知っている。</p> <p>⑦ ・ 『しわい屋』の内容が理解できる。 ・ 桂かい枝さんの活動の内容について理解できる。 ・ 落語の特徴や成り立ちに関する知識がある。 ・ so/neither+(助)動詞+主語/as if の用法を知っている。</p> <p>⑧ ・ 南アフリカの人種問題について理解できる。 ・ ネルソン・マンデラがどのように南アフリカをひとつにまとめようとしたか理解できる。 ・ 関係代名詞の継続用法(~+of which [whom])/仮定法現在/結果を表す to-不定詞 の用法を知っている。 ・ Part 1,3 で、「譲歩」の表現が用いられていることを理解している。</p>
------------	-------------------------------	---	---	--

三 学 期	1 2 3	<p>⑨Lesson 9 『The Most Advanced Water—“NEWater”』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去分詞の分詞構文 ・いろいろな仮定法 <p>小テスト実施および解説（返却時）</p> <p>⑩Lesson 10 『Less Is More』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付帯状況の with ・関係詞節中に他の節を含む場合 ・主語の省略 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験 ・小テスト ・英熟語テスト 	<p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールの水事情と NEWater が作られたいきさつについて理解できる。 ・どのように NEWater が作られるのかが理解できる。 ・過去分詞の分詞構文／いろいろな仮定法の用法を知っている。 ・Part 4 でトピック・センテンスを意識してパラグラフを読むことを理解している。 <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルーノ・タウトが桂離宮に魅了されたいきさつについて理解できる。 ・禅と茶道の共通点について理解できる。 ・付帯状況の with／関係詞節中に他の節を含む場合／主語の省略 の用法を知っている。 ・身の周りの “Less Is More” の思想を表現したものに関する知識がある。
-------------	---------------------	--	--	--

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。